

Chœur Prière

クール・プリエール 第40回定期演奏会

～斎藤友香理 常任指揮者就任記念～



SAITO Yukari (Conductor)

Palestrina: *Missa Papae Marcelli* (excerpts)

パレストリーナ: 教皇マルチエルスのミサより

Prinsloo: *Salve Regina* (Japan premiere)

プリンスルー: サルヴェ・レジーナ(日本初演)

Brahms: *Fünf Gesänge*, Op.104

ブラームス: 5つの歌 Op.104

Mozart: *Vesperae solennes de confessore*, K.339

モーツアルト: 証聖者の莊厳晩課 K.339



OMURA Hiromi
(Soprano solo)

指揮: 斎藤友香理

独唱: 大村博美(S)、家田紀子(A)、千代崎元昭(T)、山口統央(B)

合唱: クール・プリエール 伴奏: プリエール室内オーケストラ

2024年9月22日(日) 浜離宮朝日ホール

1:30pm開場 2:00pm開演 入場料3,000円(全自由席)

《チケットお取扱い》チケットぴあ Pコード 274027 <https://pia.jp/>

《お問合せ》メール info@choeurpriere.com tel.03-3718-0408

《ホームページ》<https://www.choeurpriere.com>



ホームページ



斎藤 友香理（指揮）
SAITO Yukari

東京都出身。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ピアノ科卒業後、同大学の科目履修生『指揮』に在籍し、黒岩英臣、高関健、梅田俊明の各氏に師事した。2009年からはローム ミュージック ファンデーションの指揮セミナーで小澤征爾、湯浅勇治、三ツ石潤司各氏の指導を受ける。その後小澤征爾氏により指揮研修生に選ばれ、特別レッスンを受講する。そして2010年9月にサイトウ・キネン・フェスティバル松本(現セイジ・オザワ松本フェスティバル)で青少年のためのオペラ《ヘンゼルとグレーテル》を指揮し、オペラデビューを果たした。また同年からは一年間、公益財団法人 新日鉄住金文化財団「指揮研究員」として紀尾井ホール室内管弦楽団および東京フィルハーモニー交響楽団で研鑽を積む。2013年9月からはドイツのドレスデンに拠点を移し、ドレスデン音楽大学大学院指揮科に在籍、G.C.ザンドマン教授に師事し、修了。その間、ドレスデン音楽祭総監督であるヤン・フォーグラーの推薦によりモーリッツブルグ音楽祭に招かれ、ハインリヒ・シフのアシスタント指揮者を務める。2015年、第54回ブザンソン国際指揮者コンクールで聴衆賞とオーケストラ賞を同時受賞。2016年にはリール国立管弦楽団を指揮し、欧洲デビューを果たす。また2017年には、ウィーンのトーンキュンストラー管弦楽団との公演において、ダニエル・オッテンザマーと共に演奏。2018年5~7月にはバイエルン州立歌劇場で上演されたワーグナー《パルジファル》で、音楽監督キリル・ペトレンコのアシスタントを務めた。これまでに読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、兵庫県立芸術文化センター管弦楽団、九州交響楽団を指揮。昨年、当団の前常任指揮者、黒岩英臣の勇退に伴い、その後任に就任。黒岩英臣に師事していた2008~2009年当時、クール・プリエール定期演奏会での練習伴奏・練習指揮を担当。今回の定期演奏会は、それ以来、15年振りでの当団との再会となる。

大村 博美（ソプラノ独唱）
OMURA Hiromi



東京藝術大学院修了後イタリア留学中にベルヴェデーレコンクールオペラ部門（ウィーン）、ジャンランコマズィーニオペラコンクール（イタリア／レッジョエミリア）等の国際コンクール入賞。拠点をフランスに移しマルセイユ国際オペラコンクール優勝。欧米豪の歌劇場や音楽祭で「蝶々夫人」、「オテロ」デズデモナ、「トロヴァトーレ」レオノーラ、「フィガロの結婚」伯爵夫人、難役として知られる「ノルマ」等、常にソプラノの主役で活躍。プッチーニフェスティバル（イタリア／トッレ・デル・ラーゴ）で2018年、19年に2年連続「蝶々夫人」、21年に「トスカ」で主演し喝采を浴びた。日本では新国立劇場「蝶々夫人」、「ドン・カルロ」エリザベッタ等で大成功を収め、近年は東京二期会の「蝶々夫人」、「トスカ」、「椿姫」、演奏会形式「ノルマ」等で喝采を博す。コンサートの分野でも、ロンドン交響楽団とセントポール大聖堂でブラームスの「ドイツ・クライエム」ソロ、フランス国立管弦楽団とパリのシャンゼリゼ劇場でメンデルスゾーンの「真夏の夜の夢」ソロを務める等高い評価を受ける。東京交響楽団とのベートーヴェン第九のCD、オペラオーストラリアから違う演出で2本の蝶々夫人のDVDが発売中。クール・プリエールとは、今回で2年連続、3回目の共演となる。



家田 紀子
(アルト独唱)



千代崎 元昭
(テノール独唱)



山口 統央
(バス独唱)

小澤征爾指揮「スペードの女王」でデビュー。藤原歌劇団、日本オペラ協会、新国立劇場、東京室内歌劇場、日本オペレッタ協会など多くの舞台に出演。「夕鶴」を国内で7回、ローマ、パリ、ハノイ公演の他、池辺晋一郎作曲「おしち」のプロデュース主演で成功する。ルーマニア「蝶々夫人」、シンガポール、ソウル、上海、台湾などに招聘され国内外で活躍。近年、日本オペラ協会「春琴抄」の春琴、「静」義経」の北条政子、「死神」のたつ、金沢にて「卒塔婆小町」で小町と老婆両役を好演。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。日本ロッキー協会運営委員。日本演奏連盟会員。CD「永遠に」「宵待草」「歌に生き 恋に生き」発売中。

京都大学卒業。尚美学園ディプロマ首席修了。東京二期会公演「こうもり」でデビュー。その後、渡欧し約25年間イタリアを中心に世界約40ヵ国で1200回以上オペラに出演する。ミラノ・スカラ座、ヴェローナ野外劇場、ベルリン・ドイチュオーバーなどオーディション合格。1993年にはトリノ王立歌劇場「マノン・レスコー」(プッチーニ作曲)初演100周年記念テノールに選出される。マリオ・デル・モナコ国際コンクール最高位、ベッリーニ国際コンクール入賞。声楽をP.ヴェントワーリ、P.M.フェラーロ、C.ベルゴンツィ、F.コレリの各氏に、演技・演出論をP.トレヴィージ、音楽理論・指揮法をS.P.アマート氏に師事する。関西二期会会員。

1985年東京出身。2001年より桐朋学園女子高等学校音楽科(共学)にて声楽を専攻する他、特別副科として指揮法を学ぶ。桐朋学園大学卒業。同大学研究科修了。小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XI 歌劇「蝶々夫人」などに出演する他、日本各地でソリスト、合唱指揮やボイストレーニングをつとめ、現在は私立暁星小学校音楽科主任と聖歌隊の指導にあたる。声楽を加賀清孝氏、指揮を山本七雄氏に師事。クール・プリエールとは、2012年、16年以来、3回目の共演となる。

プリエール 室内
オーケストラ(伴奏)

プリエール定期演奏会のために編成された室内オーケストラ。桐朋学園卒の若手弦楽メンバーを主体に、第一線で活躍する実力派メンバーで構成。

山根 あづさ(violin1/ concertmistress) 伊藤 梢(violin1) 金子 都(violin2) 奈良原 裕子(violin2) 安井 総太郎(cello)
下川 朗(contrabass) 木村 卓巳(fagott) 鶴田 麻記(trumpet) 金子 美保(trumpet) 秋場 一宏(timpani)



クール・プリエール（合唱）
Choeur Priere

1973年、東大柏葉会OBを中心に10数人で発足。初期の指揮者は栗山文昭。合唱団O.M.P.の構成メンバーとして、1978年、1980年、全日本合唱コンクール全国大会にて金賞。1982年に黒岩英臣を常任指揮者に迎え、翌年、アンサンブル・ミニョン(女声)と合併、新生クール・プリエールとして再スタートした。主としてルネサンス期の宗教曲、世俗曲、ロマン派、近現代に至るヨーロッパのア・カペラ合唱曲をレパートリーに、繊細なアンサンブルを目指している。1982年都民コンクール第一部門第一位、1983年同招待演奏(黒岩英臣指揮)、1984年~87年宝塚国際室内合唱コンクール銅賞、TVEC(東京ヴォーカルアンサンブルコンテスト)1995年一般の部金賞、2000年以降では銀賞2回・銅賞3回入賞。昨年、創立50周年を期に常任指揮者の黒岩英臣が勇退、後任に斎藤友香理を迎えて、新たな一步を踏み出す。

<https://www.choeurpriere.com/>

《チケットお取扱い》

チケットぴあ

Pコード 274027 <https://pia.jp/>

《主催・お問合せ》 クール・プリエール
メール info@choeupriere.com
tel.03-3718-0408



会場のご案内

浜離宮朝日ホール

東京・朝日新聞社 新館2階（本館奥）
中央区築地5丁目3-2 Tel. 03-5541-8710
都営大江戸線・築地市場駅（A2出口）すぐ
東京メトロ日比谷線・築地駅（2番出口）・
東銀座駅（6番出口）徒歩約8分